

地域移行、考え方もさまざま

文化庁、スポーツ庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」策定にあたり令和4年11月17日から12月16日の一か月間全国から意見を募集したところ、980件の意見が寄せられました。全国からの意見ですから長与町には当てはまらない考えもありますが、部活動の地域移行について多くの考え方があることをご理解ください。ほんの一部ですが、紹介します。

- 過疎地域では地域のスポーツ団体等が少なく、中学校の部活指導をできる人材が不足している。また、学校同士も非常に遠距離で合同部活動も負担が大きく、地域移行が進めにくい。
- 部活動数を大幅に削減し、それにあたる教員数を半分くらいにすべきである。地域ごとに拠点校を調整し設置する。顧問候補は、公募で引き入れるなどの工夫が必要。
- 休日の部活動が地域移行によって負担軽減が図られ、家庭の時間が確保でき、大変ありがたい。(学校の先生の意見ですね)
- 地域団体の活動に部活動と同じような休養日や活動の時間を示されると新たな地域団体の設立が限られ、受け皿になる地域団体の組成は進みにくい。将来的に子どものニーズにあった地域団体を選択できるようにするのであれば、さまざまな活動方針を持った団体を容認すべき。
- 休養日の設定に関しては、生徒の負担軽減を意識したものになっているが、私立学校や強豪校はガイドラインを守られていないのが現状で力の格差が広がることが予想される。
- クラブを立ち上げるのにお金がかかる。個人負担が大きすぎるので、立ち上げたくても難易度が高い。
- 支援を必要とする生徒が増えている昨今、子どもとの関係性を築けない指導者からの指導には耐えられない生徒も多い。技能の有無よりも生徒への指導能力がある指導者を確保すべきである。
- 複数指導者で互いの指導を監視する等、問題の未然防止や問題発生時のサポート体制を検討するべき。
- 指導者を長期的に確保する場合、副職として指導者が有償で指導できる環境を整える必要がある。無償では指導者の質も上がらない。
- 保護者の費用負担は、施設を使い専門の指導を仰ぐのであれば、それ相応の負担は必要である。家庭の経済力によって参加控えが起こり、格差が生じないよう全国の生徒が地域クラブ活動に参加する際の参加費等の支援をお願いしたい。
- すぐに全中大会(全国中学校総合体育大会)への地域スポーツ団体の参加を認めることには反対。組織整備がきちんとなされていない中で、部活動の地域移行の課題が複雑に絡み合い、大会運営や中学校、生徒への混乱を招く恐れや、現実的に大会である以上勝利至上主義を加速させ、不平等を生む恐れがある。



長与町は今年度4月から土日の運動部活動完全移行を実施しました。他県には長与同様に進んでいる地域もありますが、長崎県内の他地域をはじめ、全国にも地域移行の困難を訴える地域がたくさんあります。いろんな意見や考え方があり、地域移行の進捗状況も様々です。子どもは昔を知りません、環境にも柔軟に対応できます。昔を知っている大人は、過去の概念にとらわれすぎず”生徒第一”を基本に最適な環境を作ってあげる義務があります。

部活指導の思い出 No.1

20年近く前の秋の日、サッカー部員10名を連れて、長与中学校へ練習試合に来たことがあります。負けましたが、その試合で得点をした生徒が大喜びでベンチに向かってこぶしを突き上げました。こぶしには、人差し指が一本、しかも得意満面の笑顔付きです。ベンチにいるのは、顧問の私ひとりです。

その年度末でサッカー部は廃部となりました。次に入ってくる小学生が見込めなかったからです。この時の得点はその生徒の最初で最後の得点でした。3月、保護者・生徒・顧問でのお別れ会のなかで、サッカーをがんばりますとさえず、「4月から勉強をがんばりたいです」といった生徒の言葉に保護者も私も涙があふれ出ていました。今みたいに地域クラブがあれば、廃部を回避できたかもしれません。

文責：山川(部活動地域移行コーディネーター)